

自主防災組織を結成しよう！

災害時には隣近所の助け合いが大きな力を発揮します。隣近所に誰が住んでいるのか知っておき、声を掛け合うことで逃げ遅れを防ぐことが可能です。



市では、こうした地域で助け合って防災活動に取り組む「自主防災組織」の結成を奨励・支援しています。今後も多くの地域で結成されるよう、ご協力をお願いいたします。

自主防災組織の結成状況等

自主防災組織の結成状況（平成19年4月1日現在）

組織率：51.0% 組織数：143組織

地元説明会・訓練の実施状況（平成19年4月1日現在）

- 説明会 平成17年度 回数：75回 参加数：2,998人
平成18年度 回数：57回 参加数：2,766人
- 訓練 平成17年度 回数：18回 参加数：2,533人
平成18年度 回数：38回 参加数：2,525人

6月から「土砂災害警戒情報」を発表！

愛媛県と松山气象台では6月1日から「土砂災害警戒情報」を発表します。この情報は、大雨による土砂災害のおそれがある時に、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する新たな防災情報です。

この情報は、テレビやラジオ、愛媛県と気象庁のホームページを通じてお知らせします。

避難情報が出たら速やかに行動しよう！

災害時の避難情報は3段階に分けて発令され、避難するための準備を促す「避難準備情報」、避難を促す「避難勧告」、さらに状況が悪化し、避難すべき時期が切迫した場合の「避難指示」があります。高齢者や体の不自由な方は避難準備情報が出た段階で避難をはじめてください。

避難情報はテレビやラジオ、広報車や市ホームページでお知らせします。避難情報が出ていなくても、危険を感じた場合は速やかに自主避難をしてください。

土砂災害等の避難基準

区分	避難準備情報	避難勧告	避難指示
前日までの連続雨量100ミリ以上	当日の日雨量が50ミリを超えたとき	当日の日雨量が50ミリを超え、時間雨量が30ミリ程度の強雨が降り始めたとき	土砂災害の前兆現象が発生した場合
前日までの連続雨量40～100ミリ	当日の日雨量が80ミリを超えたとき	当日の日雨量が80ミリを超え、時間雨量が30ミリ程度の強雨が降り始めたとき	
前日までの連続雨量40ミリ未満	当日の日雨量が100ミリを超えたとき	当日の日雨量が100ミリを超え、時間雨量が30ミリ程度の強雨が降り始めたとき	

こんなときは早めの避難を！ 土砂災害の前兆現象

土石流



- ・山鳴りがする
 - ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる
 - ・川の流れがにごり、流木が混ざりはじめる
- 特徴：谷や斜面にたまった土・砂・石などが、集中豪雨などの大量の水とまじり合っ一気に流れ出てくる。

地すべり



- ・地面にひび割れができる
 - ・沢や井戸の水がにごる
 - ・斜面から水が吹き出す
- 特徴：比較的緩やかな斜面において、粘土などのすべりやすい層を境に、その地面がズルズル動き出す。

がけ崩れ



- ・がけからの水がにごる
 - ・がけにひびが入る
 - ・小石がパラパラ落ちてくる
- 特徴：地面にしみこんだ水分が土の抵抗力を弱め、斜面が突然崩れ落ちる。

【土砂災害防止月間等について詳しくは、市庁舎別館河川課 TEL0897-52-1543】

土砂災害の前兆現象に注意しよう！

西条市の土砂災害危険箇所数 476カ所

愛媛県は急峻な地形と中央構造線など大規模構造線の影響による脆弱な地質構造に加え、市街地・集落が山裾まで広がっています。そのため、土石流、地すべり、急傾斜地の崩壊などが起こりうる土砂災害危険箇所数は、県全体で1万5190カ所（うち西条市は476カ所）あり、全国第14位となっています。

さらに保全対象人家戸数が5戸以上等（ランクI）の土砂災害危険箇所数でみると、県全体で6796カ所（うち西条市は236カ所）あり、全国第8位と非常に多い状況となっています。市内の土砂災害危険箇所については、市が発行した防災マップまたは市のホームページで確認できます。